



大学を間接誘導する装置としての 財政配分制度

—イギリスの事例から—

田中正弘
(日本女子大学)



白書『The Future of Higher Education』(2003)によれば

- 高等教育の主な改善目標(p. 2)
 - 1) 高等教育の更なる機会拡大
 - 2) 大学の研究力の更なる強化



政府の考え

- 高等教育の機会拡大は、
門戸を広げるだけでは成し得ない。
(中途退学を防ぐために教育改善が必要)
- 大学の研究力強化において、
研究資金が拡散してしまうのは望ましくない。
(最良の研究大学への集中投下が有効)



その疑問とは、

イギリス政府は、
教育の改善促進と研究資金の拡散防止を、
市場原理の働く競争的な環境の中で、
高等教育機関の自由意志を尊重しながら、
(言い換えれば、強権を行使することなく、)
如何なる方法で成し遂げようとしているのか？



所見

- イギリス政府は、高等教育財政審議会に、財政配分制度の変更を、ここ数年の間に幾度も勧告するという「民主的な手法」で、政府の意向と合致する方向へと、大学を間接的に誘導しようとしている。



研究評価と資金配分

- 2001年の研究評価 (Research Assessment Exercise: RAE) では、大学の各学科を七段階 (1, 2, 3b, 3a, 4, 5, 5*) で格付け
- 高等教育財政審議会 (Higher Education Funding Councils: HEFCs) は、RAEに基づき、研究資金 (quality-related research funding: QR資金) を傾斜配分

2003/4年度の場合

表1：2001RAEの格付けと傾斜配分定数（2003/4）

2001RAEの格付け	傾斜配分定数
1	0
2	0
3b	0
3a	0
4	1
5	2.793
5*	3.362

出典：Higher Education Funding Council for England, (2003) *Funding Higher Education in England: how HEFCE allocates its funds*, (Bristol: HEFCE), p.15

2002/3年度の場合

表 2 : 2001RAEの格付けと傾斜配分定数 (2002/3)

2001RAEの格付け	傾斜配分定数
1	0
2	0
3b	0
3a	0.305
4	1
5	1.89
5*	2.707

出典 : Higher Education Funding Council for England, (2002) *Funding Higher Education in England: how HEFCE allocates its funds*, (Bristol: HEFCE), p.18



2001/2年度の場合

表3：1996RAEの格付けと傾斜配分定数（2001/2）

1996RAEの格付け	傾斜配分定数
1	0
2	0
3b	1
3a	1.5
4	2.25
5	3.375
5*	4.05

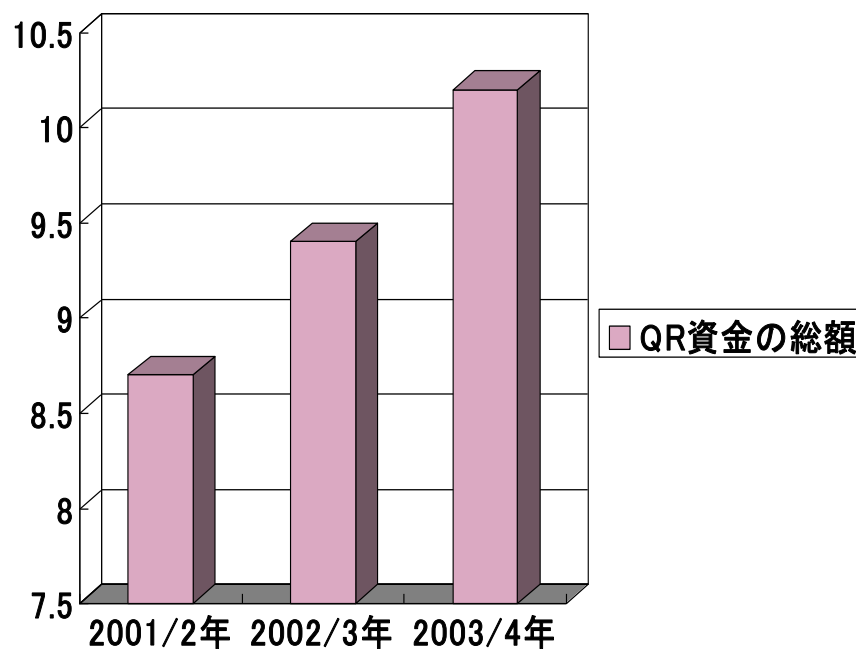
出典：Higher Education Funding Council for England, (2001) *Funding Higher Education in England: how HEFCE allocates its funds*, (Bristol: HEFCE), p.21

傾斜配分定数変更の意図は？

- 研究資金全般の削減のため？

否 (QR資金の総額は漸増傾向)

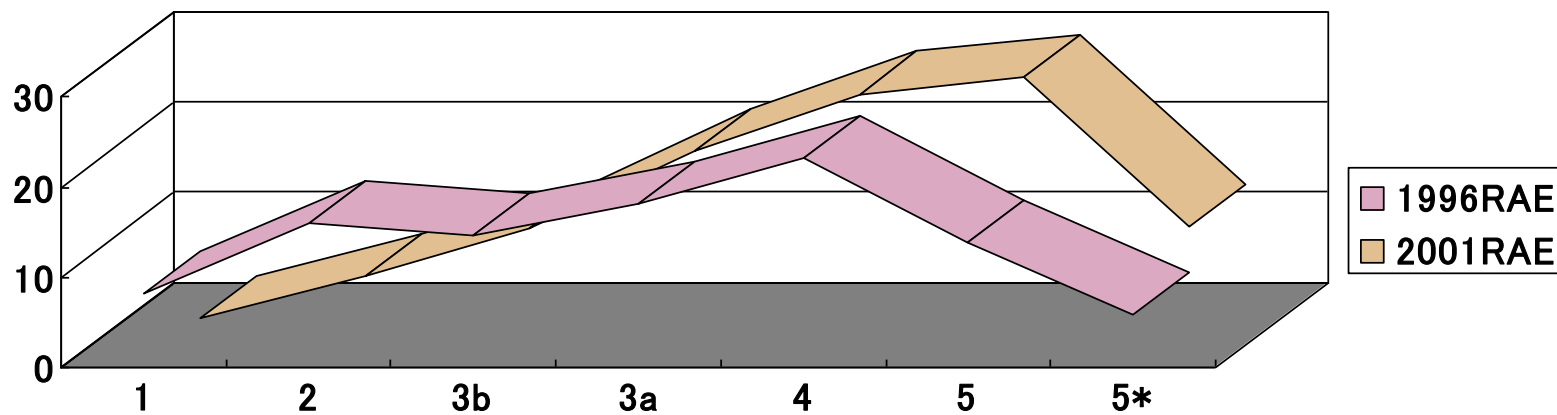
表4: HEFCEが配分したQR資金の総額
(単位: 億ポンド)



定数変更の目的を探る鍵は？

- 2002／3年度から、2001RAEの結果がQR資金の配分に反映されたことにある。

表5: 格付けの割合(パーセント)



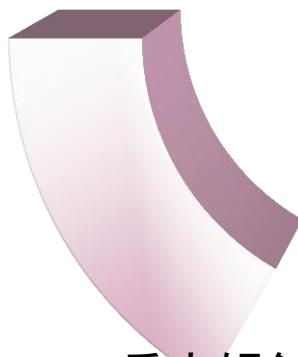
イギリス政府の解釈？

右回りのサークル
ダイアグラム



2001RAEの好結果

全体的な研究の質の向上



重点傾斜配分方式の成果？



ところが現実には、

- 政府は、低い格付けを受けた大学のQR資金を削ってでも、5*に格付けされた各大学へのQR資金額がこれまでの水準を下回らないよう、HEFCEに強く要望
- その結果先述したように、HEFCEは本流のQR資金を受給できる最低ランクを年次引き上げることを決断



論議

- 政府の定義する研究の「質」とは？
 - × 高等教育全般を視野に入れたもの
 - ごく少数の大学の質を対象

- 政府にとっての「質」の向上とは？
 - × 二流の大学を一流の研究大学へと発展
 - 一流の研究大学を超一流の研究大学へと発展



白書での提言

- 「私たちは、HEFCEに、最も重要な研究者集団であるベスト5*—または『6*』—と呼ぶべき学科を、2001RAEの結果を用いて特定するよう勧告する。そして、それらの学科に対してこれから三年間の研究資金増加を約束し、追加資金を提供したい。私たちに最大の収益をもたらすと思われる強大な研究機関に、私たちの資金を集中させることが何よりも枢要である」(DfES, 2003, p.30)。

提言の具体化

- HEFCEは、1996RAEと2001RAEの両方で 5*を獲得した大学の学科を「ベスト5*」と定義し、2003/4年度に、合計2千万ポンドをベスト5*特別手当として分配

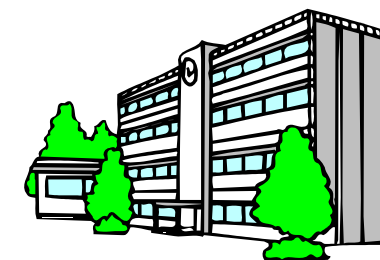


4 & 5



削減

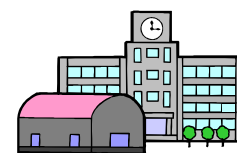
金額維持



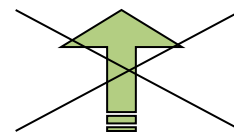
Vest 5* Departments



ベスト5* 特別手当



3a & 3b



カット

結果

研究資金配分方法の変更を要請

2001RAEの格付けインフレに対処

限りある研究資金の拡散防止



教育資金配分制度

- HEFCsが分配する教育補助金の総額は、原則的に四つの要因によって決定
 - 1) 学生数
 - 2) 学問領域
 - 3) 学生の出自
 - 4) 機関の現況



学生数と学問領域

- 1) 学生数の算出は、フルタイムの学生数 (full-time equivalent: FTE) を基準値として、パートタイムの学生などは、概ね0.5FTEとして計算
- 2) 学問領域は、大まかに四つー臨床系, 実験系, フィールドワーク系, その他の学系ーに分類

2004／5年度の場合、各FTEあたりの基本額は、

■ 臨床系は、	£13, 936
■ 実験系は、	£5, 923
■ フィールドワーク系は、	£4, 529
■ その他の学系は、	£3, 484



割増金(premium)制度

基本額の一割にあたる割増金が、

- I. パートタイムの学生を受け入れた大学
- II. 基礎学位コースの学生を受け入れた大学
- III. 単科大学
- IV. 小規模な大学

に配分される。

HEFCEの教育補助金配分例

				(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)
	Price group	Mode	Level	FTE	Price group weighted FTE	Part-time 10% × (a)	Foundation degree 10% × (a)	Instituion-specific 10% × (b)	Small institution 10% × (a)	Total weighted FTE sum (b) to (f)	Standard resource (g) × £3,484
Univ. X	A	FTS	UG	100	× 4 = 400	0	0	0	0	400	
	C	FTS	UG	200	× 1.3 = 260	0	0	0	0	260	
	D	FTS	UG	870	× 1 = 870	0	0	0	0	870	
Total				1170	1530	0	0	0	0	1530	£5,330,520
Univ. Y	B	PT	FD	900	× 1.7 = 1530	90	90	153	90	1953	
Total				900	1530	90	90	153	90	1953	£6,804,252

大学(X)と大学(Y)の教育補助金の差額は、£1,473,732 (約3億円)



高等教育拡大のための奨学金制度

奨学金は、

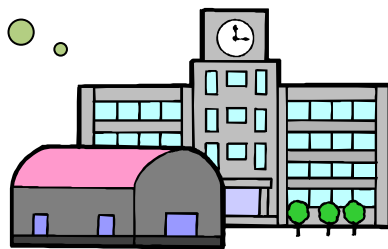
- I. ある特定の地域出身の学生
- II. GCE-Aレベル試験に合格していない学生
(≒学カレベルの高くない労働者階級出身の非伝統型学生)

を受け入れた大学に配分

割増金・奨学金制度の効果

研究資金は獲得
できそうにもない。

非伝統型学生
の受け入れに
は、金銭的なメ
リットがある。



優等学位を
出すのが、
真の大学

中退は
金銭的
なデメ
リット

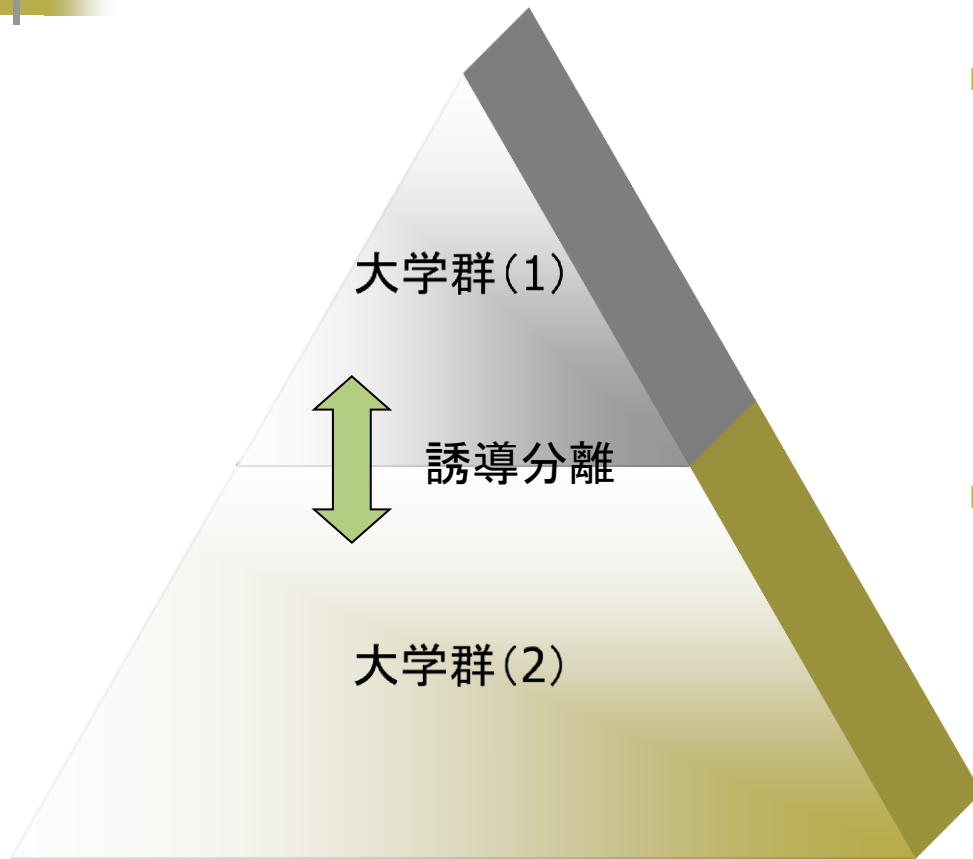
葛藤



制度の効果(2)

- 大学が自由意志によって自らの教育改革を決断
e.g.
 - 1) 優等学位 (honours degree) コースの見直し
 - 2) パートタイムの学生が学びやすい環境の整備
 - 3) 進級・卒業を支援する制度(初年次教育などの理念の具体化)
- ✓ 教育型大学として維持・発展する道の提示

大学を間接誘導する装置としての 財政配分制度



- 大学群(1)

研究型大学たるべく、互いに自由かつ熾烈に競争

- 大学群(2)

教育型大学たるべく、互いに自由に競争

まとめ～日本への示唆～

自由競争下での評価にリンクした財政配分制度

個性・特色豊かな質の高い大学(勝組)

淘汰される大学(負組)

一般学生の進学道を閉鎖



イギリスから学ぶべきことは、

- 高等教育の機会拡大を下支えする教育型大学の役割・社会的貢献をもっと高く評価し、公的な教育援助資金を重点的に配分することを通して、これらの機関の自発的な教育改善の動きを活性化させること。



結論（示唆）

- 辺境にある私立短大でも競争の中で活路を見いだせるような方向に、行政機関が間接的に誘導できるような財政配分制度を、擬似的な市場モデルとして構築すべき。